



平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

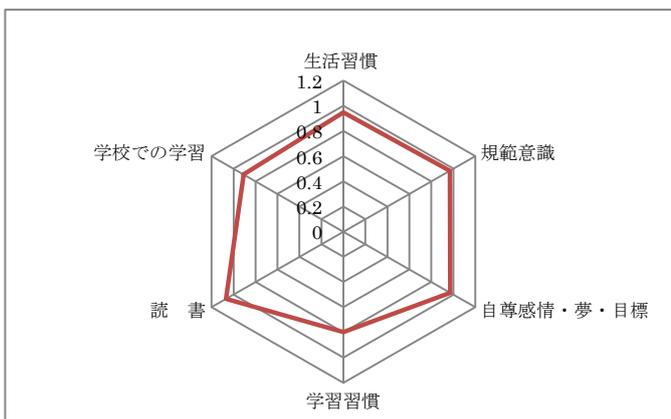
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	話すこと・聞くことに関する問題に比べ、読むことやローマ字など言語に関する事項を問う問題に課題が見られた。繰り返し学習する場を設定する必要がある。	下回っている
国語B	文章や図を関連付けて読み取ったり、整理して表現したりすることができた。記述による問いに対して、簡潔な文章で表現する力がついている。	上回っている
算数A	正しく計算する力や基礎的・基本的な内容の定着を図る必要がある。知識・理解を確かなものにするため、繰り返し学習をする場を多く設定する必要がある。	下回っている
算数B	式の中の数値を解釈したり考えを記述したりすることなど、数学的な考え方を必要とする問題はできていた。さらに多様な見方や考え方を育てる必要がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・毎日宿題をする児童はほぼ全員である。しかし、家庭で計画を立てて勉強することは、約半数の児童しかできていない。学習内容は宿題や復習が中心で、自ら計画したり、次の学習に興味をもって予習したりする児童は多くない。
- ・児童の読書量は全国平均を大きく上回った。今後も、毎週実施している「朝の読書活動」や学校図書館の充実、読み聞かせボランティアの方々との取組等を継続することで、読書好きの児童の育成に取り組んでいく。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 「朝の活動」時間の徹底 月曜日…音読 水曜日…計算 木曜日…読書・読み聞かせ
- 子ども自らが主体となって学習し、思考力・表現力・判断力を育てる学習活動
 - ・書く活動が位置付いた授業
 - ・「めあて」「まとめ」「振り返り」を書く学習の位置付け
 - ・児童が「考える」「書く」「発表する」場面のある授業への改善

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭での学習習慣の定着と学習内容の確実な定着を目指す(学習の基盤づくり)
 - 「一校小家庭学習の手引き」や「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した、宿題と自主学習の実施
- 家庭生活習慣等に関する取組について保護者・地域との連携の強化
 - ・学校だよりや保護者会等での生活の見直しについての啓発活動